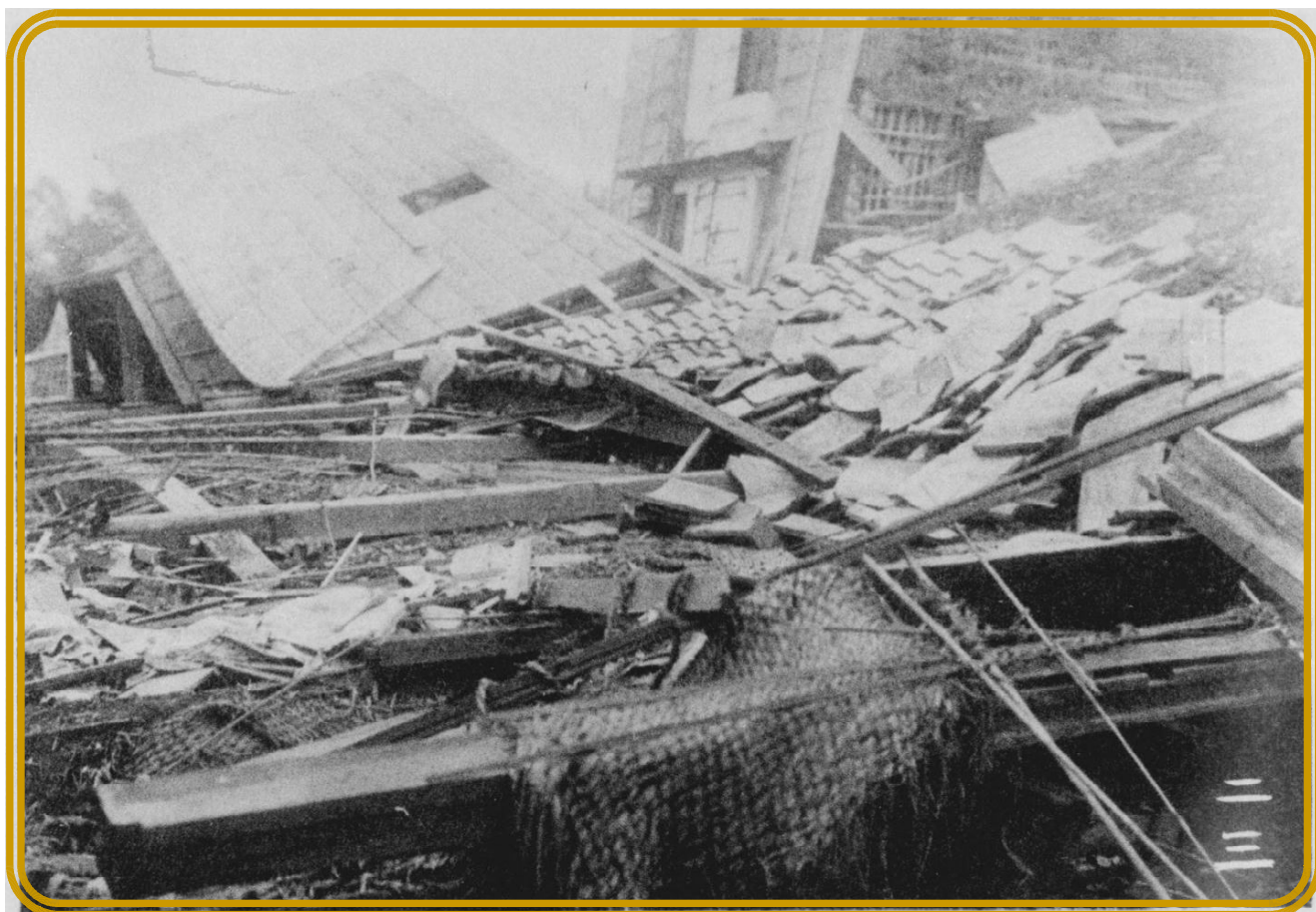


寒川文書館だより

Vol. 10



関東大震災 一之宮の家屋倒壊（『神奈川県農会報』183号）

■第10号目次

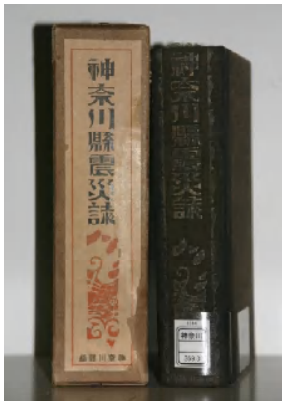
- 東日本大震災と寒川文書館 2
- 運営審議会委員が改選／寒川の先人たち 5
- 第10回企画展「再発見！さむかわの農業」 6
- 文書館 最近のできごと 7

第10号
2011.9.30
寒川文書館

東日本大震災と寒川文書館

平成23年(2011)3月11日、東日本大震災が発生しました。当館では収納棚1本が折れ曲った他に被害ははなく、スタッフも資料も無事でしたが、計画停電の対応に追われることになりました。いっぽう、震災関連のレファレンスが急増し、これに応えるためミニ展示を企画したり出前講座に出講したりと、この半年、さまざまな動きがありました。

レファレンスの急増



『神奈川県震災誌』(昭和2年刊)

震災を契機に、自宅が安全かどうか、資料で確かめたいという利用者が急増しました。関東大震災ではどのような被害があったか、津波はあったのか、地盤はどうか、液状化の恐れはないか、過去の土地利用がどうだったか、標高はどのくらいかなど、さまざまな問い合わせがあり、手持ちの資料で一人ひとりに回答していきました。安心情報を手に入れるため文書館の持つ資料を参考にするという、今回の町民の皆さんの一連の行動は、はからずも文書館の存在意義をアピールすることになりました。

文書館で調べられること

○関東大震災の被害

『神奈川県震災誌』(昭和2年)は県内全域の被害状況が克明に記録されています。これによれば、寒川村では全壊575戸、半壊238戸、死者31人、負傷者27人とあります。津波については、鎌倉郡などでは被害があったのに対し、高座郡の記録は全く書かれていません。

○標高

津波の影響を心配し、自宅の標高についての問合せが多くありました。「都市計画基本図」1/2500には標高のデータが詳しく載っています。4.3m(田端)から26.6m(岡田)までの範囲となっています。

○過去の土地利用

明治8年「旧公図」、昭和4年「地番反別地目入図」などで、水田、宅地などの地目を調べることができます。また昭和22年以降の航空写真や、昭和42年から揃っている明細地図でも、家屋の有無などが調べられます。

○地質ほか

『神奈川県地域環境資源情報書』(昭和59年)には、氾濫平野、ロームといった地質、活断層の位置、山崩れや液状化等の起きやすい場所などが図示してあります。



ミニ展示「関東大震災の記録」



貴船大神境内の関東大震災記念碑

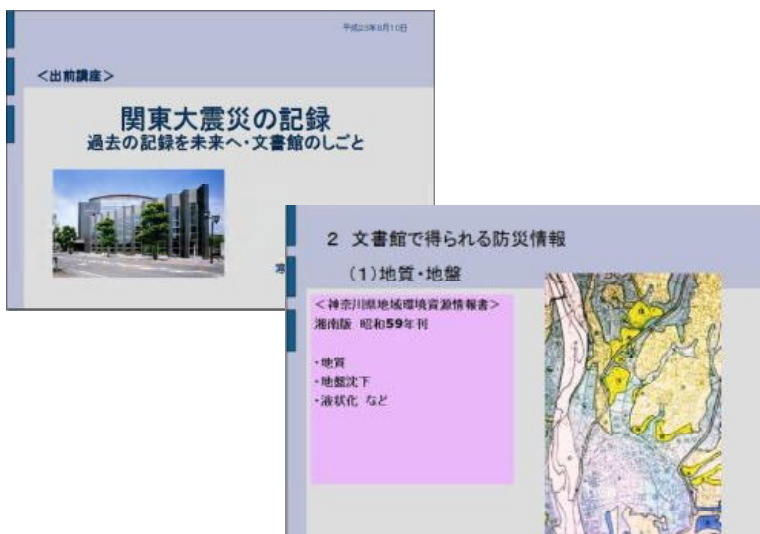
過去の震災の被害状況についての問い合わせが増えたのを機に、急遽ミニ展示を企画しました。関東大震災の際に記録された一次資料を中心に、寒川神社の社務記録、田端青年会の日誌、記念碑、個人の日誌や原稿などを抜粋し、パネルを作成するとともに、筆写原稿などをクリアファイルに入れて、全文を読んでもらえるようにしました。さらに、防災関係の行政刊行物を並べたり、防災マップを配布したりしました。図書館でもほぼ同時期に「地震や原発を知ろう」という企画展を開き、より理解を深められるよう連携をはかりました。

ミニ展示「大地震について調べよう」



夏休みの自由研究の参考にしてもらおうと、上記のミニ展示を子ども向けに焼き直して作成しました。学習院大学大学院生の実習の成果です。まず大地震により引き起こされる家屋倒壊、火災、津波などの影響を概観し、次に関東大震災における寒川での被害について紹介するという構成となりました。引き続き防災マップを配布しましたが、これを熱心に見入っている小学生も見受けられました。

出前講座の依頼



当日映写したプレゼンソフトの画像

町民のグループから依頼を受け、町職員が担当業務などを説明する「出前講座」という制度があります。8月11日、「ひこばえの会」からの要請で「関東大震災の記録」という題目で講演を行いました。同名のミニ展示の内容を紹介するとともに、文書館で閲覧できる防災に関する記録、災害時に果たすべき文書館の役割など、「防災」をキーワードに公文書館とは何かを説明しました。出席者の中には、さっそく資料を閲覧に来た方もいました。

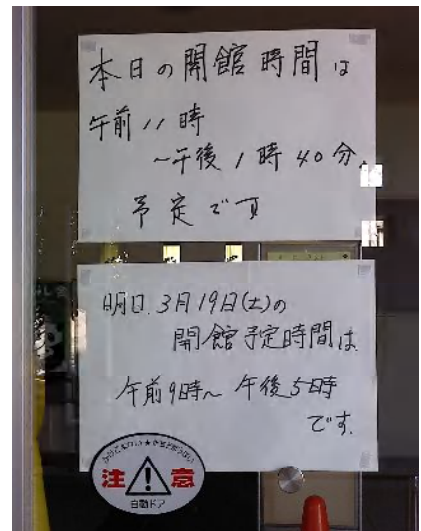
町史研究17号が再注目



平成16年3月に刊行した『寒川町史研究』第17号が再び注目を集めています。この号の特集は「寒川の災害」。関東大震災の体験者のインタビュー、関東大震災に関する史料の網羅的な翻刻、寒川神社の震災復興についての講演録、水害や火災も含めた災害年表、という内容で、ミニ展示を見にきた多くの来館者がインタビューや講演録をじっくり読みたいと、買い求めたり、借りていったりしてくださいました。

計画停電への対応

3月14日から関東一円で計画停電が始まりました。寒川総合図書館・文書館も、この影響により開館時間の変更を余儀なくされました。当面は平日も9時から17時までの開館を原則とし、さらに停電開始予定時刻の10分前に閉館、通電の1時間後から開館などのルールを設け、毎日の開館・閉館時刻がめまぐるしく変わるという事態になりました。3月25日以降は結果的に停電が回避されたため、9時から17時の開館は維持されましたが、平日19時まで開館の通常営業に戻ったのは5月6日のことでした。



開館予定を知らせる玄関の貼り紙

(3月18日)

表紙の写真



今号の表紙で紹介した写真は、関東大震災における一之宮の被害状況で、『神奈川県農会報』183号に掲載されたものです。神奈川県農会は明治28年(1895)に設立され、農事試験場の設置、品評会や講習会の開催など農業振興のための諸事業を行った組織です。会報は年に数回発行され、県内の農業事情を様々な角度から紹介しています。その1冊、大正13年5月に発行された183号は「大震災被害地の写真」と題し、県内各地の被災状況の写真100枚を載せています。寒川村で載っているのはこの写真が唯一で、当町にとって貴重な一枚です。

文書館運営審議会が改選

平成23年7月6日、寒川文書館運営審議会委員の委嘱状交付式ならびに今年度第1回（通算第7回）会議が開かれました。

この審議会は、町民や専門家の意見を反映し、より良い文書館運営を行うため、年間事業計画等を審議したり、町からの諮問に答申したりする機関で、任期は2年。町民の公募による委員2名のほか、町議会議員、学校長、町史編集委員、学識経験者、資料所蔵者各1名の合計7名で構成されます。

今回はまず、町長から各委員に委嘱状が手渡されました。次いで、正副会長の互選に移り、会長に木村勇氏、副会長に小川千代子氏が再任されました。会議では、平成22年度事業結果の報告と23年度事業計画の審議が行われ、活発な質疑を経て、いずれも了承されました。

寒川文書館運営審議会委員名簿

選出区分	氏名	備考
町議会の議員	海老根照子	
町立小中学校長	大川 勝徳	旭が丘中学校校長
寒川町史編集委員会委員	木村 勇	
学識経験を有する者	小川千代子	国際資料研究所代表
ボランティア又は資料所蔵者	野村 尚広	寒川神社権祢宜
公募による町民	徳力 雅恵	
	江川 辰夫	

敬称略、任期：平成23年6月29日～平成25年6月28日



町長より委嘱状が手渡される



会議のようす

シリーズ 寒川の先人たち

第9回：寒川ゆかりの鎌倉武士－梶原景時－

鎌倉幕府の成立に功績のあった武士です。もとは平家に仕えていましたが、石橋山合戦の時、逃亡中の源頼朝をあえて見逃して関係を深め、以降頼朝の側近として活躍しました。寿永元年(1182)には北条政子の安産祈願の使者として息子の景高が寒川神社に派遣されており、寒川周辺を領地としていたと考えられます。

建久10年(1199)に頼朝が亡くなると他の御家人と対立を深めて孤立。翌年正月、京都に向かう途中の駿河国清見関(静岡市清水区)で合戦の末に討ち死にします。この過程で鎌倉から追放された景時が拠点としたのが一之宮の天満宮周辺にあったと考えられている一宮館で、付近には「屋敷内」、「城ノ下」といった地名も残されています。



梶原景時館址の碑

再発見！さむかわの農業

寒川町のあたりでは、もともと稲作中心の農業が行われてきました。では、いったいつ頃から、現在のような多品種生産型の農業が寒川で営まれるようになったのでしょうか？

今年は寒川町農業委員会が発足してから、ちょうど60年目を迎える節目の年でもあります。そこでこの展示では、寒川の農業の歴史や現状、農業を支えてきた先人たちや組織などについて、豊富な写真や文字資料、グラフなどを用いて紹介しました。



▲さがみ農協キャラクター さっちゃん・みっくん

I 農業の現状

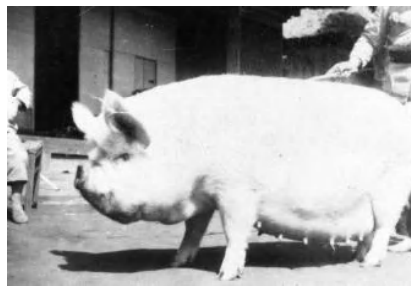
かつては水田と畑が一面に広がっていた寒川町域ですが、現在はだいぶ様変わりしました。

II 寒川農業のあゆみ

寒川では大正時代以降、花・いちご・メロンなどの園芸作物、養豚や酪農など多角的な都市近郊農業が定着しました。戦後は工場の進出等によって農地は減少しましたが、新しい作物や機械を導入するなど、いろいろな工夫をしながら農業が続けられています。



▲園芸試作場全景



▲高座豚



▲出荷ラベル（上）いちご（下）トマト

III 農を支えた先人たち

寒川の農業の礎を築いた先人のなかから、甲賀春吉・脇隆三郎（いちご）、北野與一（温室栽培）、清水善茂（寒川小学校の農業教育）を紹介しました。



▲北野與一と寒川農園



▲寒川町農協旧事務所



IV 農協の歴史

農家のくらしと生産活動を支える大切な組織、農業協同組合（農協）のあゆみと活動を紹介しました。

←わいわい市開店時のチラシ

【展示期間】平成23年3月6日（日）～8月31日（水） ※既に終了しています

文書館 最近のできごと

■資料保存活用講演会「小学校の農業教育の試み」 3月12日(土)



第4回資料保存活用講演会は、海老名市文化財保護委員の藤石良明さんをお願いしました。大正末から昭和初期にかけて、ユニークな農業教育を実践した寒川尋常高等小学校長・清水善茂の人物像について、彼の書き残した記録から解き明かそうというものでした。講師の藤石さんは、海老名市社家の寺院の住職で、清水の実家と目と鼻の先。地元ならではのエピソードも交え、記録と伝承の両面から話を伺うことができました。

■全国歴史資料保存利用機関連絡協議会役員会 5月26日(木)



平成23・24年度の2年間、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会の広報・広聴委員会事務局を寒川文書館が担うことになりました。同会の会誌・会報の発行、ホームページの管理などが主な仕事です。同時に役員会のメンバーにもなり、会運営に参画しています。今年度第1回の役員会は寒川町民センターで開かれ、全国から役員が集まりました。町長の歓迎の挨拶のあと、熱心な討議が行われました。

■学習院大学大学院のアーカイブズ実習 7月19日(火)～7月23日(土)



今年も学習院大学大学院アーカイブズ学専攻の実習生1名を受け入れています。7月と12月の5日ずつ、計10日間のカリキュラムを組み、現用文書の管理から、古文書や写真資料の整理など、文書館のさまざまな仕事を実践していただいています。写真は寒川神社方徳資料館の収蔵庫を見学させていただいたときの様子です。同館の資料保存の取り組みや、資料整理の苦労話を担当の学芸員から直接聞くことができ、情報の幅をさらに広げることができました。

■聴覚障害者協会の史跡ウォーキング 9月25日(日)



寒川町聴覚障害者協会から依頼を受け、史跡ウォーキングのガイドを務めることになりました。文書館展示コーナーに集合し、開催中の企画展「相模線きのう・きょう・あした」の説明をしたあと、支線の分岐点跡や、一之宮緑道、西寒川駅跡である八角広場など、関連史跡を2時間ほどかけて実際に歩きました。メンバーの中には鉄道に詳しい人もいて、川寒川支線の線路がまだ残っている場所を逆に教えていただく一幕もありました。

今後の事業予定

■開催中の展示のお知らせ

第11回企画展「相模線 きのう・きょう・あした」

相模線は大正10年(1921)に茅ヶ崎－寒川間で開業し、今年で90周年を迎えました。また橋本まで全通して80周年、電化されて20周年と、節目の年が重なりました。

これらを記念して、これまでの歩みや沿線の魅力、未来への取り組みなどを、たくさんの資料を使ってご紹介します。

会期 平成23年9月11日(日)～24年2月29日(水)

■平成23年度の講座・講演会

平成23年度は次の講座等を開催する予定です。日時、会場、申込み方法など、詳しいことは「広報さむかわ」、文書館のホームページ、チラシなどをご覧ください。

○古文書講座(10月まで開講中、全6回)

○中世史講座(全4回、11～2月)

○町史講座(3月上旬、寒川神社をテーマにする予定で検討中です)

○資料保存活用講演会(11月27日、講師：写真家・則直泰さん、テーマ：「キハ35を追いかけて一写真家が記録した相模線の気動車」)

編集後記

寒川文書館だより第10号をお届けします。

3月11日の東日本大震災を期に、レファレンスが急増しました。多くの町民の皆さんが、自らの安全・安心を確認するため、過去の記録を閲覧したいという気持ちが高まりました。そのニーズを満たしてくれるのが文書館の所蔵資料であると、多くの方が理解して下さるようになりました。

いうまでもなく行政の仕事は、住民が安心して暮らせるようにすることが目的であり、文書館が情報提供を行うのもまさにそのためです。公文書館としての本来の役割を担うことができるようになったこと、そしてそれを町民の皆さんがみずから求めて下さったこと。今回の動向は特筆に値すべきできごとだったのではないのでしょうか。

そこで今回は3ページの特集を組み、震災後の寒川文書館の動向についてまとめました。ぜひご覧下さい。

利用案内

■開館時間

火曜～金曜日 午前9時～午後7時

土・日・祝日 午前9時～午後5時

***計画停電等により変更になることがあります。**

詳しくはホームページをご覧ください。

■休館日

月曜日(国民の祝日にあたる場合は開館)

年末年始(12月29日～1月3日)

特別整理日(決まり次第お知らせします)

■交通のご案内

JR相模線 寒川駅下車 徒歩10分

寒川町コミュニティバス 図書館文書館前下車 徒歩1分

※なるべく公共交通機関か自転車、徒歩でお越しください。



寒川文書館だより 第10号

平成23年9月30日

編集・発行／寒川文書館

〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町宮山135-1

TEL 0467-75-3691 FAX 0467-75-3758

ホームページ <http://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp>

電子メール bunshokan@town.samukawa.kanagawa.jp